

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

認知症の救急医療の課題解決に向けた研究

先進医療データ管理室

武田 章敬 室長

平成28年6月9日(木) 16時00分～

第1研究棟2階大会議室

認知症の人やその家族が住み慣れた地域で安心して生活を継続するためには、認知症の人が肺炎や骨折などの急な身体疾患に罹患した場合に適切な医療サービスが受けられることが重要である。

認知症の人が身体疾患を来した場合に適切な医療が提供されているかどうかを明らかにするために、医療を受ける側（認知症の人と家族の会会員）と医療を提供する側（救急告示病院）に対する全国調査を行った。医療を受ける側を対象とした調査で、認知症を理由とした診療拒否や入院拒否が一定数あることが明らかとなり、また、医療を提供する側を対象とした調査で、少数ではあるが認知症の人の身体疾患の救急医療や緊急入院を行わない、受け入れない病院があることが明らかになった。これらの結果を踏まえ、診療報酬改定に関して政策提言を行った。平成28年度診療報酬改定において「認知症ケア加算」の創設等、一般病院における認知症の身体疾患への対応が初めて評価された。本報告会においては演者の診療報酬改定への関わりと今後の課題等について報告する。

また、平成27年度に厚生労働省の補助を受けて行った「認知症の医療介護連携、情報共有ツールの開発に関する調査研究事業」についても報告を行う。